

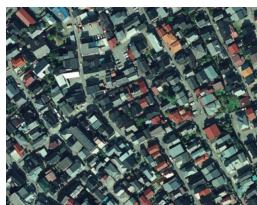
木造密集市街地における延焼シミュレーションの活用と防火対策

木造密集市街地は全国の都市に分布しており、昨今の糸魚川の大火のように、潜在的に大規模な延焼火災の危険性をはらんでいます。地震で道が閉ざされたり、積雪で渋滞した際に、消防車の到着が遅れることも想定されます。

本研究では代表的な木造密集市街地である金沢市の旧市街地を対象にして、経済的な延焼シミュレーションによって危険度を判定するとともに、有効な防火対策を提案します。将来的には全国の自治体への普及を目指しています。



市街地火災シミュレーションプログラム:国土交通省国土技術政策総合研究所および建築研究所の共同開発です。



旧市街地の航空写真:かつては城下町であった金沢市の典型的な木造密集市街地です。(国土地理地図より)



延焼危険度マップ:火災シミュレーションにもとづいて作成しています。それぞれの建物から出火した際の周辺への延焼危険性を表しています。



歴史の木造住宅:昭和戦前期以前に建てられた歴史的な住宅が、金沢市の旧市街地には今も数多く残っています。

東日本大震災では、地震火災だけでなく、津波による火災が多数発生しました。南海トラフ地震の際には、さらに甚大な津波火災が予測されます。その対策が今後の重要な課題です。



増田 達男 教授

学部：環境・建築学部 学科：建築デザイン学科
所属研究所：金沢歴史都市建築研究所、地域防災環境科学研究科
工学博士。福井大学大学院工学研究科修士課程（建築学）修了。昭和53年本学助手就任。講師、助教授を経て、平成15年現職。

Keyword

延焼シミュレーション / 延焼危険度マップ / 津波火災 / 防火対策 / 地理情報システム